


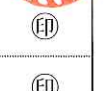



学位論文審査の結果及び最終試験の結果の要旨

学位申請者氏名	加藤 直美	
学位論文名	グレープフルーツ種子抽出物含有ペーストの歯肉炎に対する臨床効果 (Clinical Effects by the Paste including Grapefruit Seed Extract on Gingivitis.)	
論文審査委員	主査：	松本歯科大学 教授 吉成 伸夫 
	副査：	松本歯科大学 教授 芳澤 享子 
	副査：	松本歯科大学 教授 十川 紀夫 
	副査：	
	副査：	
最終試験	実施年月日	2019 年 8 月 5 日
	試験方法	<input type="checkbox"/> 口答 ・ <input type="checkbox"/> 筆答
学位論文の要旨		
<p>【目的】</p> <p>本学位申請論文の目的は、歯肉炎に対する化学的プラークコントロールの1手段として、ハーブ系天然生薬であるグレープフルーツ種子抽出物（グレープフルーツシードエクストラクト：GSE）含有ペーストを歯肉辺縁へ塗布することによる臨床効果を検討することであり、この目的のため臨床的に歯肉の炎症程度を検証している。</p> <p>【材料と方法】</p> <p>材料(対象者)と方法は、成人で20歯以上を有しており、歯肉炎、軽度慢性歯周炎の診断後、加療を受け治癒したのち、3-4ヶ月毎に定期的に来院、かつ、プラークコントロールを起床時と就寝時の1日2回行っているメインテナンス患者を対象者とした。対象部位は歯肉炎指数1以上、プラーク指数1以上の部位とし、2種類の濃度のGSE含有ペーストおよびコントロール(基材のみのペースト)の3群に分け、1日2回、使用直前、1週間後、4週間後の口腔内検査、デンタルエックス線写真、細菌検査、有害事象を評価している。</p> <p>【結果】</p> <p>研究結果は、2種類の濃度の塗布群での歯肉炎指数、プラーク指数の有意な減少、細菌検査におけるコロニー数の有意な減少を認め、有害事象も出現しなかった。すなわち、臨床的検討によって、GSE含有ペーストの有害性の発現は確認されず、使用時の安全性、有効性が示唆された。</p> <p>【考察および結論】</p> <p>考察は、研究方法の構築法、実験結果について文献を引用しながら論理的に考察している。結論に関しては、歯肉炎指数の減少でGSEの効果によるものとしているが、GSE以外の効果、すなわち、患者のプラークコントロールレベル、ペースト基材による物理的效果、細菌検査結果より歯肉縁上プラーク除去効果の可能性へも言及しており、内容は論理的である。本研究の範囲内ということであるが、GSE含有ペーストの安全性、有効性が示されている。</p>		

(様式第 13 号)

学位論文審査結果の要旨

本学位申請論文は、歯肉炎に対する化学的プラークコントロールの1手段として、ハーブ系天然生薬であるグレープフルーツ種子抽出物（グレープフルーツシードエクストラクト：GSE）含有ペーストを歯肉辺縁へ塗布することによる臨床効果を検討したものである。

結果として、2種類のGSE濃度の塗布群での歯肉炎指数、プラーク指数の有意な減少、細菌検査におけるコロニー数の有意な減少を認め、有害事象も出現しなかった。すなわち、臨床的検討によって、GSE含有ペーストの有害性の発現は確認されず、使用時の安全性、有効性が示唆された。

よって、本研究の範囲内ということであるが、GSE含有ペーストの安全性、有効性が示されたと結論づけている。

本論文は、その手法、得られた結果から導いた考察とその結論はいずれも適切で、耐性菌出現の報告がないハーブ系天然生薬という安全性の高いグレープフルーツ抽出物が、機械的歯面清掃効果を補填する化学的プラークコントロールの手段として有効であることについて新たな知見を示した。

計測方法には、規格性、再現性があり、今後本研究結果からいろいろな症例、部位を対象を進展させることができると思われ、発展性、将来性、応用性がある論文である。

以上から、本論文が博士(歯学)の学位論文に値すると評価した。

最終試験結果の要旨

申請者の学位申請論文について、研究に関する基礎知識、論文の内容に関わる事柄、および研究成果の今後の展開などについて、口答による試験を行った。

質問事項は、次のとおりである。

- 1) GSEの成分について
- 2) GSEの濃度設定について
- 3) 細菌検査結果の考察について
- 4) 化学的プラークコントロールの種類について
- 5) プラーク依存性歯肉炎の分類について

さらには、上述の質問から派生する関連事項を基礎的、臨床的な面から口頭試問した。申請者は、すべての質問において、十分な知識からわかりやすく解説できた。よって、専門分野の知識を十分に有しており、博士課程修了者として臨床歯科医学の発展性、将来性についての見識を有していると判断した。

以上により、本審査会は本申請者が博士(歯学)として十分な学力および見識を有するものと認定し、最終試験を合格と判定した。

判定結果

合格

不合格

備考

- 1 学位論文名が外国語で表示されている場合には、日本語訳を()を付して記入すること。
- 2 学位論文名が日本語で表示されている場合には、英語訳を()を付して記入すること。
- 3 論文審査委員名の前に、所属機関・職名を記入すること。